



# 国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 291  
2025.3▶4

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しみ、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2025年3月1日  
編集・発行 公益財団法人千里文化財団

## 国立民族学博物館友の会

# 2025年度上半期催しのご案内

友の会では、刊行物や講演会の他、国内外の旅行等、研究者と身近に交流する機会をご提供します。

### 友の会講演会

#### ■大阪 毎月第1土曜日・第5セミナー室で開催

みんぱく館内で開催する友の会講演会は、会場とオンライン配信併用で実施しています（オンライン配信は友の会会員限定。諸事情により会場のみで実施する場合があります）。

- 4/5（土） 【特別展関連】…P5 参照  
「民具のミカタ博覧会  
——見つけて、みつめて、知恵の素」の展示を概観する  
日高 真吾（民博教授） ※終了後、特別展を見学
- 5/3（土・祝） 【企画展関連】…P5 参照  
イザベラ・ウフマンとレターリアリティの世界  
永井 正勝（筑波大学教授）、相島 葉月（民博准教授）
- 6/7（土） ヨーゼフ・クライナー（ボン大学名誉教授）
- 7/5（土） 高科 真紀（民博助教）
- 8/2（土） 【季刊民族学 193号連動企画】  
藤井 真一（民博助教）
- 9/6（土） 【新館長就任記念講演】  
関 雄二（民博館長）

#### ■東京

- 5/24（土） 【特別展関連】  
みんぱく x ムサビ「民具で継ががるコレクション」  
加藤 幸治（武蔵野美術大学教授）
- 9月頃 赤尾 光春（民博特任助教）

### 体験セミナー（国内）/ 民族学研修の旅（海外）

#### ■体験セミナー

日本国内の文化に親しむ現場体験型のプログラムです。

##### 第89回

美大生企画「民具のミカタ・ワークショップ」…P3 参照

講師：加藤 幸治（武蔵野美術大学教授）  
武蔵野美術大学学芸員課程履修生

日時：5月31日（土）

会場：武蔵野美術大学鷹の台キャンパス 民俗資料室（東京都小平市）

#### ■民族学研修の旅

研究者の調査地を訪ねる海外研修の旅です。

##### —お知らせ—

下半期（11月頃）には、好評を博した2024年度企画展「客家と日本」をふまえ、台湾南部地域の客家の暮らしを訪ねる旅行を計画中です。夏頃に詳細をご案内する予定です。お楽しみに！

### 市民向けビジュアル学術誌『季刊民族学』

写真を豊富に掲載した「市民向けビジュアル学術誌」です。

192号 4/30 発行

特集「ヒップホップ：逆転の哲学（仮）」

193号 7/31 発行

特集「南方戦線の戦後誌——現地の人びとの暮らしから（仮）」

### 入学・就職のお祝いに！

## 国立民族学博物館友の会への ご入会をプレゼントにご利用ください！

国立民族学博物館友の会へのご入会を贈り物にしてみませんか。贈り主様からのメッセージを添えて会員証をお届けします。刊行物、展示観覧、各種イベントへの参加をとおして、世界の文化に触れていただくことができます。

郵便局で、振替用紙の備考欄に、ご送付先のご住所及びお名前（フリガナ）をご記入のうえ、年会費（正会員13,000円、ミュージアム会員5,000円）をご送金ください。正会員の方は『季刊民族学』巻末に綴じ込みの振替用紙もご利用いただけます。

振替口座番号：00970-9-317960

加入者名：公益財団法人千里文化財団

※オンライン決済もご利用いただけます。

[https://www.senri-f.or.jp/minpaku\\_associates/about/join/](https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/about/join/)



まもなく  
開幕!

みんぱく創設 50 周年記念特別展

# 民具のミカタ博覧会

見つけて、みつめて、知恵の素

民具は、日常生活に必要なものとしてつくり、使われてきた暮らしの造形であり、身近な素材を活かす知識や技、人びとが育んできた自然観や世界観にふれることができます。また、民具は、研究者が旅をし、さまざまな地域你的生活文化と出会いながら収集され、博物館のコレクションへと発展します。本特別展では、1970 年大阪万国博覧会のために世界各国で収集された世界の民具と、その同時代に日本文化の多様性に目を向けて、全国規模で収集された武蔵野美術大学所蔵の日本の民具から、選りすぐりの民具を紹介します。数多くの切り口から、世界と日本の民具の魅力を「見つけて」、ひとつひとつ「みつめて」、そこに「知恵の素」を探っていただきます。

会期 2025 年 3 月 20 日 (木・祝) ~ 6 月 3 日 (火)

会場 国立民族学博物館 特別展示館

## 展示のみどころご紹介!

### 世界と日本の民具が 織りなす「知恵の素」

世界と日本、それぞれの民具を見比べながら、生活に息づく工夫や文化の違いを体感。日常に潜む「知恵の素」を探ってみませんか?

### EEM コレクション

EXPO'70 のテーマ館「太陽の塔」地下で展示された約 2,500 点の民族資料。それらを収集したのが「日本万国博覧会世界民族資料調査収集団」、通称「EEM (EXPO'70 Ethnological Mission)」です。本展では、その一端を EEM コレクションとして紹介し、EXPO'70 を振り返ります。

### 宮本常一のまなざしが捉えた、日本の民具

ムサビ・コレクションは、旅する巨人と称された民俗学者の宮本常一が中心となって、武蔵野美術大学生活文化研究会と近畿日本ツーリスト日本観光文化研究所が収集したもので構成されます。このなかには、民族文化博物館を 1975 年に開設することを念頭に収集された、生活文化や流通などを示す陶磁器・竹細工・染織が含まれています。

### 友の会会員のみみなさんにご案内

特別展の関連企画として、第559回友の会講演会、第139回東京講演会と第89回体験セミナーを開催します! 詳細につきましては本紙5ページをご覧ください。



## 関連商品

### 特別展オリジナルグッズ

特別展「民具のミカタ博覧会」のオリジナルグッズをご紹介します!

2種類あります



Tシャツ  
会員予定価格 3,465円 (税込)  
予価 3,850円 (税込)



クリアファイル  
会員予定価格 360円 (税込)  
予価 400円 (税込)



お問い合わせ

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ (水曜日定休)  
e-mail [shop@senri-f.or.jp](mailto:shop@senri-f.or.jp)  
オンラインショップ「World Wide Bazaar」  
<https://www.senri-f.or.jp/shop/>

※写真はイメージです。特別展の関連商品は、開幕以降に店頭に並びます。



# 民具のミカタ・ワークショップ

[催し詳細・受付フォーム](#)


日 時：5月31日(土) 13:30～15:30  
 会 場：武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス 民俗資料室  
 共 催：武蔵野美術大学 美術館・図書館  
 参 加 費：維持会員・正会員 4,200 円  
 上記以外の方 6,200 円  
 募集人数：30名(先着順、最少催行人数18名)  
 申込締切：4月30日(水)

- 維持会員・正会員の方は3月4日(火)、それ以外の方は3月11日(火)より受付開始。
- 正会員の方は同伴者1名まで会員価格で参加できます。

民具は、人々の暮らしの中で理にかなった造形として生み出されたものです。今春開催の特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」展は、民具の素材や造形と、生活の中で育まれたデザインから、表現のヒントとなる“知恵の素”を見出すことを意図しています。

武蔵野美術大学 美術館・図書館の民俗資料室では、3月31日(月)より6月3日(火)までサテライト展「ヴァナキュラー・比較文化論—国立民族学博物館・特別展サテライト展示—」を開催します。「ヴァナキュラー比較文化論」をキーワードに、国内外の民具や神像、仮面等を展示し、期間中は民俗資料室の収蔵庫を公開しています。

今回の体験セミナーでは、同大学の民俗資料室ギャラリーを訪問し、学芸員課程の学生さんたちが企画したワークショップをとおして、民具のミカタを深め、その魅力に迫ります。



武蔵野美術大学 美術館・図書館 民俗資料室外観  
 撮影：加藤幸治、2022年



民俗資料室収蔵庫の様子  
 撮影：加藤幸治、2022年

## 実施内容

本ワークショップは、ギャラリーでの展示と収蔵庫を会場に、民具をじっくり観察(熟覧)しながらスケッチする「ムサビミングスケッチ」を行いながら、その造形的な面白さ、デザイン性など、それぞれが新たに気づいた民具の魅力を参加者同士で互いに共有するイベントです。

企画は、美術やデザインを学びながら学芸員資格取得をめざすムサビの学生さんたちです。絵を描く経験が全く無くても子どもから大人まで楽しめますので、幅広い世代の方にご参加いただけます。美大生とともに楽しみながら、民俗資料の魅力を見つけて、みつめて、“知恵の素”を探りましょう。



「美大生と共に民具をスケッチ」  
 撮影：加藤幸治、2022年



「参加者のミカタを共有する」  
 撮影：加藤幸治、2022年

13:30 武蔵野美術大学正門集合  
 13:35～ 全体説明  
 14:00～ ギャラリー見学と収蔵庫見学の2グループに分かれてワークショップ  
 15:00～ 共有と対話、質疑応答  
 15:30 解散

## 講師

### ◆加藤 幸治

武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授、同美術館・図書館 副館長。みんぱく創設50周年記念特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」実行委員。専門は民俗学(民具研究)、博物館学。博士(文学)。主な著書に、『民俗学 パブリック編 みずから学び、実践する』(武蔵野美術大学出版局、2025年)、『渋沢敬三とアチック・ミュージアム：知の共鳴が創り上げた人文学の理想郷』(勉誠出版、2020年)他、監修書に『民具のデザイン図鑑』(誠文堂新光社、2022年)など多数。

### ◆武蔵野美術大学学芸員課程履修生

## 会場

武蔵野美術大学 鷹の台キャンパス 13号館 2階  
 民俗資料室ギャラリー  
 東京都小平市小川町1丁目736  
<https://mauml.musabi.ac.jp/museum/guide/>

## 交通案内(2025年2月現在のダイヤです)

- JR国分寺駅から西武バス「武蔵野美術大学」行、「国分寺駅北口」12:59発、「武蔵野美術大学正門」13:22着
- 西武国分寺線(東村山行)「鷹の台」駅下車、徒歩約20分
- JR立川駅から立川バス「武蔵野美術大学」行、「立川駅北口」13:00発、「武蔵野美術大学」13:28着、正門まで徒歩2分

## ■サテライト展「ヴァナキュラー・比較文化論—国立民族学博物館・特別展サテライト展示—」展示資料について

1970年大阪万博に先立ち、EEM(日本万国博覧会世界民族資料調査収集团)が世界各国で収集した資料は、太陽の塔内部の「地底の太陽」とともに展示され、国立民族学博物館に収蔵されました。また、高度経済成長期の日本において、日本観光文化研究所が全国規模で収集した国内最大規模の民俗資料は本学に収蔵されました。世界へ向けられた異文化へのまなざしと、日本列島の文化の多様さへのまなざしを、同時代の2つのコレクションは宿しています。

今回の展示は、共催企画である国立民族学博物館の創設50周年記念特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」のサテライト展示として開催されます。EEMからタンザニアのマコンデ高原に住んでいたマコンデの人びとによる彫像を展示し、そこに武蔵野美術大学が所蔵するパプアニューギニアの神像などの海外資料、日本の民俗資料を組み合わせ展示されています。

企画展も  
はじまります!



みんなく創設50周年記念企画展

# 点と線の美学——アラビア書道の軌跡

会期：2025年3月13日(木)～6月17日(火)

会場：本館企画展示場

アラビア書道はアラビア文字を美しく書く手法を追求する芸術です。10世紀のバグダードで体系化され、主にイスラーム建築の装飾やクルアーン写本に用いられてきました。アラビア書道に魅了された人びとが、中東・イスラーム世界に限らず欧米や日本においても、千年の伝統と向き合い作品制作に真摯に取り組んでいます。コミュニケーションのデジタル化が進む今日において手で文字を書くことの社会的役割を探求するとともに、20～21世紀におけるアラビア書道の変容と再生の軌跡をたどります。

## 友の会会員のみなさんにご案内

企画展の関連企画として、第560回友の会講演会「イザベラ・ウフマンとレターリアリティの世界」を開催します! 詳細につきましては本紙5ページをご覧ください。

## いま、中東世界で何が起きているのか? ——前・駐レバノン大使に聞く

対談イベント

毎日のように中東世界のニュースが飛びこんできます。SNSで発信されるフェイクニュースも含めて、何が真実かわからない状況に、わたしたちは戸惑いながらも、世界がいつか平和になるように祈らざるをえません。長年、日本の中東外交の第一線で活躍してきた前大使の見た現実、わたしたちが耳を傾けることで、中東世界で起きていることについての深層を知り、地球社会のメンバーとしてこれからの世界をともに考えてみましょう。



いま、中東世界で  
何が起きているのか?  
——前・駐レバノン大使に聞く

日 時：3月22日(土) 13時30分～16時(開場13時)  
会 場：国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール(講堂)  
登壇者：大久保 武(前・駐レバノン大使)、鷲見 朗子(京都ノートルダム女子大学教授)  
西尾 哲夫(民博名誉教授)  
主 催：NIHU グローバル地域研究推進事業「グローバル地中海地域研究」  
共 催：国立民族学博物館、公益財団法人千里文化財団



詳細はこちら



## 友の会講演会 実施報告

■第554回■2024年11月2日(土)

「みんなく創設50周年記念特別展「吟遊詩人の世界」関連

## 世界を席巻するRAPの魅力

——あなたもわたしも吟遊詩人

矢野原 佑史 (京都大学特任研究員)

近年、ラップと呼ばれる歌唱法が、世界中のポップミュージック・チャートを賑わすようになっていきます。二〇二四年九月から二月に民博で開催された特別展「吟遊詩人の世界」では、ラッパー(ラップをする者)たちを「現代における吟遊詩人」として捉える試みがなされました。登壇者は、カメルーン共和国におけるラッパーたちとのフィールドワークに基づいて、ラップと口頭伝承の関わりを研究してきました。今回の講演は特別展と連動する形をとり、準備段階より友の会スタッフの皆様の大なるご協力を得て、大きく三部に分かれる構成とさせていただきます。

日本が誇る詩人/ラッパー・志人(しびつと)の作品・展示解説をおこないました。第三部では、特別展示館2階にて登壇者が監修した詩作体験スペース「あなたも吟遊詩人」において、ラップ調の連歌をつくるワークショップに参加者全員にチャレンジしてもらいました。

講演後の参加者アンケートには、韻を駆使した遊び心あふれるコメントがあったり、「(ラップとは)世界の見え方を変えるということか」といった重要な気づき書かれていたりして、各々の詩性を解き放つことで再度拓かれてゆく日常世界の片鱗を感じさせていただきました。

第一部は、本館・第五セミナー室にて、(オンライン視聴者を含む)参加者からの質疑応答を含めた講演をおこない、特にラップの成り立ち、世界各地の口頭伝承とのつながり、韻の力などについて説明いたしました。第二部では、特別展示館へ移動して、登壇者が担当したワークショップ「うたが生まれる心の小道」にて、



カメルーンで楽曲制作するラッパーたち  
撮影：矢野原佑史、2024年



写真展

【第139回東京講演会

みんぱくxムサビ「民具で継ががるコレクション」関連】

# ムサビ・コレクション 菌部澄が撮影した民具

会場：武蔵野美術大学 市ヶ谷キャンパス2階 1/M  
(東京都新宿区市谷田町1-4)

参加費：入場無料

特別展「民具のミカタ博覧会」で展示されている郷土玩具は、民俗写真の草分け的な写真家である菌部澄が収集しました。東京講演会の開催に合わせ、同大学の学芸員課程履修生の企画による菌部澄撮影の民具写真パネルを展示します。

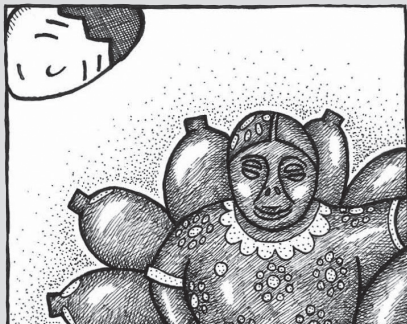


第139回東京講演会と同時開催になります。

菌部澄写真パネル  
上：笠(撮影年不詳、1960年代後半か)  
下：ぼんどり(撮影年不詳、1960年代後半か)  
パネル撮影：加藤幸治、2024年

## ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



二月二十八日(火)  
ペルー北部ノ  
ヤキモノデス。  
酒壺三冊マ  
レタ女ノ人ノ  
顔がニッリ  
突ッテイルン  
デスヨ。

## 友の会講演会のご案内

お申し込みには、友の会ホームページ内の受付フォームをご利用ください。

### ■大阪

・会場(定員70名)、オンライン配信ともに事前申込先着順です。  
・会員は会場参加に限り予約が不要です。会場受付にて会員証をご提示ください。

### ■東京

・事前申込先着順です。オンライン配信はございません。

※大阪・東京ともに会場での聴講は会員以外の方もご参加いただけます。  
(参加費500円)

## 大阪

第559回

【みんぱく創設50周年記念特別展

「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」関連】

# 「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」の展示を概観する

講師：日高 真吾 (民博教授)

日時：4月5日(土)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加(定員70名) ②オンライン配信での参加

民具を見ると、日常の暮らしのなかで人びとが育んできた自然観や世界観にふれることができます。特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」はこうした民具の魅力をさまざまなミカタから引き出すことを目的としました。そこで、本講演では、特別展「民具のミカタ博覧会——見つけて、みつめて、知恵の素」の展示内容について、その全容を解説します。

※終了後、展示の見学会をおこないます(要会員証もしくは特別展示観覧券)。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/559tomo/>



第560回

【みんぱく創設50周年記念企画展「点と線の美学——アラビア書道の軌跡」関連】

# イザベラ・ウフマンとレターリアリティの世界

講師：永井 正勝 (筑波大学教授)

相島 葉月 (民博准教授)

日時：5月3日(土・祝)13:30~15:00(開場13:00)

参加方法：①第5セミナー室での参加(定員70名) ②オンライン配信での参加

イザベラ・ウフマンは、絵もテキストとしてとらえた古代エジプトの人びとの思想を継承する現代アートの作家です。ワルシャワ大学で美術を学んだ後、古代エジプトの遺跡修復に携わる中で、アラビア文字とヒエログリフを織り交ぜた作品を着想しました。本講演会では、絵画でもありテキストとしても読めるウフマン作品の世界観を解き明かします。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/560tomo/>



## 東京

第139回

# みんぱくxムサビ「民具で継ががるコレクション」

講師：加藤 幸治 (武蔵野美術大学教授)

日時：5月24日(土)13:30~15:00(開場13:00)

会場：武蔵野美術大学 市ヶ谷キャンパス7階 コワーキングスペース「Ma」(定員50名)

共催：武蔵野美術大学 美術館・図書館

※オンライン配信はございません。

※武蔵野美術大学在學生と同教職員の方は無料でご参加いただけます。

国立民族学博物館が所蔵する、民具研究黎明期のアチックミュージアム・コレクション。渋谷敬三に学んだ宮本常一が、戦後に若者たちと収集したムサビ・コレクション。それと同時代に大阪万博のために世界中から収集されたEEMコレクション。三つの民具コレクションから、アチックミュージアムが現代に残したレガシーを探ります。

受付フォーム <https://www.senri-f.or.jp/139tokyo/>



■第555回■2024年12月7日(土)

## 異郷の聖母子たち

—アジアの美術とキリスト教

古沢 ゆりあ (民博機関研究員)

本講演では、二〇世紀のアジアのキリスト教美術について紹介しました。一九二〇年代から中国、日本、東南アジアなど各地で、「現地の様式によるキリスト教美術」の制作が宣教師により奨励され、現地の博物館や博覧会で展示されました。

「現地の様式によるキリスト教美術」とは、キリストやマリアをそれぞれの国や地域の表現で描いたものや、伝統工芸の手法で作られた教会美術などです。

西洋キリスト教美術の移植ではない表現方法の奨励は、在中国宣教師であったイタリア人宣教師チェルソ・コスタンティーニの働きかけによります。彼は、キリスト教が西洋帝国主義と結びついたイメージを払拭する必要があると考え、現地の様式によってこそ宗教美術に必要な荘厳さを表現できると考えました。彼の元で、陳路加らの画家たちによって中国の聖画が創出されました。

同様に日本でも、長谷川



1961年のバチカンのクリスマス切手になった中国の画家陳路加による聖母子像 提供：古沢 ゆりあ

路可や小関きみ子らカトリックの画家たちが、和服をまとった「日本の聖母」などの作品を描きました。

日本、中国やその他の国々の「宣教地の美術」は、一九三七年パリ万博のバチカン館や一九五〇年のバチカンの「聖年宣教美術展」で展示された他、西洋各地の「宣教博物館」に収蔵され、本や雑誌でも紹介されました。

これらの美術は、現地の文化を重んじるものではありませんが、伝統的表現の偏重とモダニズムの排除というオリエンタリズム的まなざしを含んでもいました。一九六〇年代以降、時代の変化の中で、「宣教地の美術」という枠組みは解体と変容をしていきました。

■第556回■2025年1月11日(土)

## 『アイヌ通史』にみるアイヌ史研究の課題と展望

マーク・ウィンチェスター (民博助教)

「本には読まれるべき瞬間が刻まれている」。その瞬間が、リチャード・シドルの『アイヌ通史』に訪れていると感じます。この本は、英語圏で初めてアイヌの近現代史を本格的に扱ったもので、長年翻訳されずにいました。現在、アイヌ民族に対する人種差別や歴史修正主義が社会問題として浮上し、これまであった差別が新たな技術を通じて再生産されている。その差別の再生産がどのように行われ、なぜ起こるのかを体系的に分析したのが、まさに『アイヌ通史』なのです。

構成要因として差別を軽視する傾向があります。政治の場でも、アイヌ政策は「文化振興」に限定され、北海道の入植植民地化が引き起こした問題を正面から扱うことを避ける傾向が見受けられます。

一方で、現在には「かつこいいアイヌの文化」対「暗いアイヌの歴史」というイメージが広がっています。アイヌ民族の当事者は、自分たちのことが「差別」という枠組みだけで語られることに懸念を抱き、社会の多数派である和人は反差別活動を「差別の話を書くこと」だと誤解することがよくあります。また、学術界では「同化」対「抵抗」の二項対立を乗り越えることに注目するあまり、歴史の

戦後のアイヌの「新しい政治」と「アイヌ性の再構築」を、アイヌの社会的周辺化と差別への「創造的応答」として捉えました。シドルは、アイヌが与えられた条件の中で自分たちの歴史を創り出す力を持っていることを強調しました。この創造的な歴史への接近が、現代に蔓延する「暗いアイヌの歴史」イメージを克服し、差別に真摯に取り組むための出発点となると私は考えています。

Race, Resistance and the Ainu of Japan

「蝦夷」から先住民族へ  
リチャード・シドル  
マーク・ウィンチェスター 訳

差別の歴史の想像的回復へ  
岩波書店

リチャード・シドル著、マーク・ウィンチェスター訳『アイヌ通史：「蝦夷」から先住民族へ』岩波書店、2021年

本紙掲載の情報は、2025年2月20日時点で決定している内容です。諸事情により急遽予定を変更する場合があります。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

### 国立民族学博物館友の会

公益財団法人 千里文化財団

〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園10-1 (国立民族学博物館3階)  
電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00)  
FAX：06-6878-3716  
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp

国立民族学博物館 最新情報

ホームページ  
<https://www.minpaku.ac.jp/>

Facebook  
<https://www.facebook.com/MINPAKU.official/>

国立民族学博物館友の会 最新情報

ホームページ  
[https://www.senri-f.or.jp/minpaku\\_associates/](https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/)

Facebook  
<https://www.facebook.com/minpakutomo/>